



ロータリーは機会の扉を開く

2020~2021 RI.2760地区

瀬戸ロータリークラブ会報

2020年10月14日発行 第2767号

本日のプログラム

2020年10月14日(水)

通算第2944回例会

本年度 第11回

場所：瀬戸商工会議所

例会次第

- ・開会点鐘
- ・「それでこそロータリー」
- ・出席状況
- ・会長挨拶
- ・行事
- ・誕生日・結婚記念日祝福
- ・幹事報告
- ・委員会報告/その他の報告
- ・卓話

パスト会長 平松 啓君

「おもい浮ぶままに」

パスト会長 寺田 悟君

「私とロータリー」



第2943回例会挨拶 会長 松村晋也君

皆さん、こんにちは。本日は 2943 回の例会であります。ゲストを紹介いたします。愛知県立芸術大学美術部陶磁専攻教授長 井千春様と 2020 学年度米山奨学生イ・チェリムさんです。後程、二人には卓話をさせていただきますと思います。そしてもう一人ご紹介いたします。合資会社カネ三商店代表社員加藤克己様であります。加藤様、本日は例会の体験で来ていただきました。我々の仲間に入って一緒にロータリーライフを楽しんでいただきたいと思います。さて 10 月は RI の月間としまして経済と地域社会の発展月間、それから日本独特なものです。米山月間、そして今日からの一週間をロータリー学友参加推進月間、10 月 24 日は世界ポリオデーということで RI の月間として沢山あります。今日は教育とロータリーの関わりについて話をしてみたいと思っております。今から 3 年程前に小林という外科医の先生が「明日死ぬかのように生きよ」というタイトルで本を出されました。実はこのタイトル、この先生が言ったものではなく、有名なインドのガンジーが言った「明日死ぬかのように生きよ、永遠に生きるかのように学べ」という言葉でございます。これは今日一日を明日死んでも良いくらい充実して悔いなく生きよという事、それから人間生きていく限り永遠に学ぶという姿勢、気持ちが必要だよという意味合いであります。外科の先生がこういうタイトルを出されたという事は終末医療で

いつ亡くなられるかわからないという患者さんに対して今日精一杯生きましようねという意味合いを込めてのタイトルでございます。この教育という事について似て非なる言葉として学問と学習という言葉があります。学問というのは未だ知られざるものへの問いかけであり、その答えを求める過程であると言われており、基本的にアルゴリズムが通用しない世界と言われております。一方、学習はわかった真実事実というものを盲目的とにかく覚えこんでいく丸暗記の世界であります。今日お見えになっている長井先生もイ・チェリムさんも学問の最高の所からみえている方です。私が前々回の時にお話しさせていただいた基本的教育と識字率の向上、これは勉強をする環境に無い人に例え文房具を送ったり、教室を作ったりとにかく基本的な読み書きが出来るように援助する事業であります。一方、今日みえている米山の奨学生の方々はマスターコース、ドクターコースを勉強されている方々ばかりであります。おそらくチェリムさんは芸術の分野で日々未知なるものに挑戦し、そしてその答えを求めるために日々唸りながら制作しているのではないかなと感じております。我々のこの奉仕事業を考えてみますと、例えば国際奉仕とか社会奉仕或いは青少年奉仕というのは横並びの点ですが、この教育に関しては縦の関係ではないかと思っております。先程言いました識字率の向上のために援助して勉強ができる環境になったり、また、米山では学問というものに目覚めて成長してくれるとしたら我々の奉仕事業というのが一人の人を素晴らしい人へと育てあげる事業だと、改めて皆さんもこの事業に対してプライドを持っていただきたいと思っております。以上、今日は教育とロータリーの関係についてお話しさせていただき会長挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

前回例会 記録

2020 年 10 月 7 日 第 2943 回例会

- ・出席報告 会員数 55 人中出席 44 人
出席率 80%
- ・行事 ・2020 学年度米山奨学生
イ・チェリムさんに 10 月分奨学金授与
・2019-20 年度ロータリー賞
プラチナ 賞状授与
- ・結婚記念日 松村晋也君
青山貴彦君(祝 10 周年)
- ・卓話
愛知県立芸術大学 美術学部陶磁専攻
教授 長井 千春様
「愛知県立芸術大学陶磁専攻について」
2020 学年度米山奨学生 イ・チェリム様
「ポートフォリオ(portfolio)」

例会予定

《《《《10月21日(水)》》》》

休会

《《《《10月27日(水)》》》》

WEB 例会

澤田武憲君「新会員の卓話」

《《《《11月4日(水)》》》》

地区ポリオプラス/職業研修チーム

副委員長 青山 貴彦君

「ロータリー財団プログラムについて」

~財団はロータリー会員の財産です~

ロータリー賞(ロータリークラブ)プラチナ受賞

この賞は、国際ロータリーより、ロータリークラブに対して贈られる最も重要な賞です。シルバー、ゴールド、プラチナとあり、最高のプラチナを 2019-2020 瀬戸ロータリークラブが受賞しました。

ロータリー賞(ロータリークラブ)とは、ロータリークラブに対して贈られる最も重要な賞です。クラブを強化することを目的とした各種目標を達成することで、ロータリー賞を受賞することができます。ロータリー賞を達成するには、25 の目標を確認し、最低でも 13 を選択し、それらを達成した上で、ロータリークラブ・セントラルからその達成をご報告しなければならない。



愛知県立芸術大学 美術学部 陶磁専攻
教授 長井 千春様
「愛知県立芸術大学 陶磁専攻について」



ご紹介に預かりました愛知県立芸術大学長井千春と申します。よろしくお願いたします。今日はこのような会にお招きいただきまして誠に感謝いたしております。今年度、奨学金を授与いただいておりますチェリムさんの方がコロナの関係で9月まで韓国から日本に戻れず、その間も温かくその資格を継続していただき、また戻ってくる際には飛行場まで迎えに行っていたと心からご対応をいただきましたことを心からロータリークラブの皆様へ感謝いたします。

今日の話ですが、このようにロータリークラブにお世話になりながら、私共の愛知県立芸大のことを皆さんにご紹介する機会が無かったので、短い時間ですが、私共の専攻の事を紹介させていただきます。キャンパスは大きな森の中にある大学です。建築は近代建築で有名な吉村順三という方が50年前に設計したものです。日本には国公立の芸術大学が5つありまして、国立は唯一東京芸術大学、愛知県立芸術大学のほかに金沢美術工芸大学、京都市立芸術大学、そして沖縄県立芸術大学が運営されています。私自身は千葉大学の工業デザインの方を卒業しておりまして、陶磁器のデザインをドイツで勉強したことをきっかけに今の大学の教員をしております。我々の大学は専任教員100人、美術が50人、音楽が50人、各学部の学生が100～150人程度、大変小さい学校でして、その中には日本画、油絵、彫刻、芸術学、デザイン、陶磁器の6つの専攻があります。その中の陶磁が我々の専攻です。愛知県立芸術大学は50年前に設立しましたが、陶磁専攻は遅れて30年前の設立になります。東海3県の陶磁器のメッカでありながら、陶磁器だけが遅くできたのはあまりにも産地の真ん中にあつたからではないかと思えます。陶磁専攻の1年生は10名と一学年10名しかいない小さい学部で大学院が6人程度、博士課程が各学年1名か2名というのが全体の数で、全員合わせて50名程度の学生が作業しています。

外との接点がなかなかないので、瀬戸にいらっしゃる皆様も足を踏み入れたことが無い方が多いと思います。今、コロナの状況でなかなか難しいですが、毎年3月に卒業制作展が森の中の芸術資料館でありますので、これからはこれをご縁に案内状等で皆様に足を運んでいただければと思います。大変環境の良い所ですので足を運ぶ価値はあると思います。

<スライド説明>

ニコボックス報告

2020年10月7日例会

愛知県立芸術大学 美術学部 陶磁専攻 長井千春教授、2020 学年度米山奨学生 イ・チェリム様をお迎えして。会長 松村晋也、幹事 加藤一夫 長井先生ようこそお出で下さいました。本日の卓話よろしくお願い致します。イ・チェリムさん、リラックスして下さいね。米山記念奨学会委員長 大澤英雄

長井先生、イ・チェリムさん、ようこそお出で頂きました。卓話楽しみにしております。青山稔

イ・チェリムさんようこそ！加藤定江

41年前の10月10日は雲一つない快晴でした。その後、雨、台風がありました。松村晋也

2010年10月10日に結婚したので今年で丁度10年になります。当日はフンパツして「か茂免」に行く事にしました。青山貴彦

これで私の方からの大学紹介を終わります。長い時間でしたが、ご清聴ありがとうございました。今後とも学生指導よろしくお願いたします。

2020 学年度米山奨学生 イ・チェリム様 「ポートフォリオ (portfolio)」



皆さん、こんにちは。私は韓国から日本にきました。今まで製作した陶磁器と日本に来て参加した展覧会を紹介する発表を準備しました。どうぞよろしくお願いたします。私は91年に韓国のソウルで生まれ、ずっとソウルに住みながら大学はソウルの国民大学という陶磁専門を卒業した後、今は愛知県立芸術大学の研究生から始めて2年生で勉強しています。最初は2014年大学3年生の時、日本の作家さん達と学生達と展覧会をする機会がありました。この展覧会には私は日本に初めて来て、日本の文化を経験したり食べ物を食べたり、日本の陶磁器も体験し、本当に意味があったものでした。その時、日本の作家さんの陶磁器を見て私も日本で陶磁器の勉強をしたいと思いました。

<ろくろ、作品の説明>

私の作品は釉薬で海と空を表現した陶磁器です。私は海を見ると心が広がったり楽になる感じが好きで、私の作品を見る皆さんも同じように感じてほしいと製作しました。

<スライドの説明(卒業制作等について)>

研究生の時にポットを作った時には注ぎ口が鼻で取手が耳のように人の顔だと思いましたので、この上に蓋を帽子として制作しました。私はいつも実用的な要素よりも面白さとか形の綺麗さとかを一番考えながら制作するので、少し使いにくいかもしれませんが見た目重視が私の作りたい陶磁器です。これからは私が持っている韓国的な美感和日本で勉強した日本の美感を組み合わせる卒業制作しようと思いました。私は日本に来て自然物に興味が出て日本の植物など花を見ながら形の勉強をしました。花びらを組み合わせたお皿や背の高いお皿も制作しました。毎日、日常に使うお皿が少しでも特別感を持つなら、毎日がもっと面白くなると思いい作りました。私は今、手びねりと鑄込み技法を組み合わせる製作できるよう頑張っています。皆さん、本当に楽しみにしててください。ありがとうございます。

過日口腔衛生活動の8520運動において表彰していただき大変嬉しく感謝しています。加藤光哉

ご無沙汰しておりました。本日より復帰します。よろしくお願いたします。刑部祐介

江坂君に大変お世話になりました。有難うございました。井上博

愛知県立芸術大学 美術学部 陶磁専攻 教授 長井千春様と2020 学年度米山奨学生 イ・チェリム様の卓話を楽しみにしています！

井上博、大竹一義、大原道夫、刑部祐介、梶野輝雄、加藤五津美、加藤克己、加藤定江、加藤唐三郎、加藤光哉、加藤太伸、加藤陽一、加藤令吉、金谷康正、亀井勝、小池芳樹、小林稔、近藤三博、鈴木伸、鈴木政成、高橋信郎、田中靖達、戸田由久、野田由紀子、牧オサム、増岡錦也、松本哲也、山口記由、山本英雄、奥儀武蔵

10月の結婚記念日おめでとうございます！

大原道夫、加藤五津美、加藤一夫、加藤唐三郎、加藤太伸、小林稔、田中靖達、奥儀武蔵